

マーケティングの観点による 大学イベント企画方法の提案

情報社会学科 4年 ISプログラム
湯浦研究室 竹野純平(7061-1060)

目次

- 研究の背景
- 研究の目的
- 静岡大学浜松キャンパスの現状
- 提案するガイドラインの内容
- ガイドラインの評価
- 結論
- 今後の課題

研究の背景

- 静岡大学浜松キャンパスには様々な学生主催イベントがある。
全Jコンパ、ウェルキャン、大学祭、七夕パーティ等
- それらのイベントは成功しているだろうか？

研究の背景

イベント企画スタッフへのアンケート結果

スタッフがこの点数を付けて、イベントは成功していえると言えるのだろうか？

このイベントを100点満点で評価すると何点ですか？		
イベント名	点数	主なマイナスポイント
全Jコンパ(08)	30	当日、怪我人が出るという問題が起きた。 当日の役割分担が上手くできなかった。
ウェルキャン(09)	30	用意した当日企画が盛り上がらなかった。 当日やる事がないスタッフを作ってしまった。
就活サブリ塾(09)	60	目標来場者数を達成できなかった。 昨年を参考にし、来場者予測を楽観視し過ぎ
同窓会(09)	70	同窓会の開催を知らない同窓生が多かった。 来年に繋げる為の組織作りができなかった。
大学祭(08)	70	企画スタッフが作業に追われ、忙し過ぎた。 企画作業が厳しく、辞める人もいた。
七夕パーティ(08)	70	企画スタッフがお互いの顔をしらなかった。 スタッフ間でモチベーション差があった。
クリスマスパーティ(08)	70	会場図や作業内容など、 イベントの全体像が見えていなかった。
情報学部を語る会(08)	80	やる事を増やし過ぎて、企画スタッフの 責任と負担が大き過ぎた。

研究の目的

- 前述の背景を踏まえて、学生主催のイベントを成功に導くためのイベント企画ガイドラインを提案する。

静岡大学浜松キャンパスの イベント企画における現状の課題

- 「研究の背景」で紹介した8つのイベントの、企画スタッフにインタビューを行い調査した。
- 現状の課題
 - ・ 目標が曖昧である
 - ・ イベント企画ノウハウが伝達されていない

静岡大学浜松キャンパスの イベント企画における現状の課題

- 目標が曖昧である

イベント名	目標
全Jコンパ(08)	仲を深める。
ウェルキャン(09)	友達を作る。
就活サブリ塾(09)	来場者200人以上。
同窓会(09)	昨年の来場者を超える。 昨年、OB20人・先生15人。
大学祭(08)	参加者全員が楽しむ。
七夕パーティ(08)	子どもをたくさん呼ぶ。
クリスマスパーティ(08)	出会いの機会を作る。
情報学部を語る会(08)	問題点や不満を解消する。

静岡大学浜松キャンパスの イベント企画における現状の課題

- イベント企画ノウハウが伝達されていない
 - ・ 毎年行われるイベントでも、イベント企画スタッフは毎年入れ替わり、ノウハウの伝達がなされていないイベントも多い。
 - ・ 組織化されていても、ノウハウの伝達がなされているかは、現状を考えると疑問。

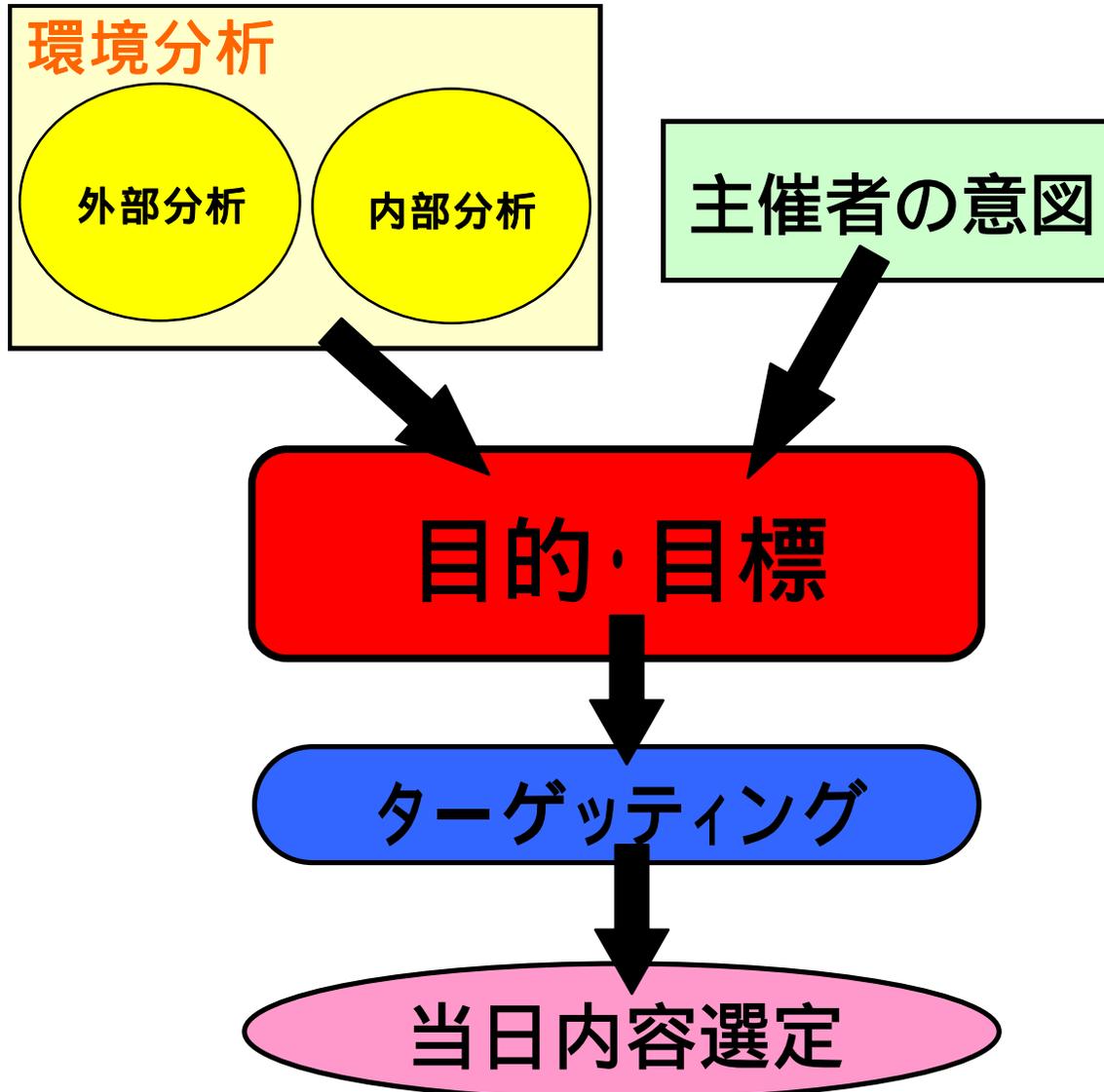
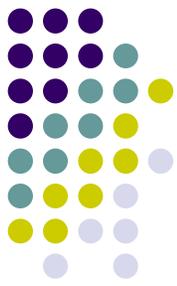
提案するガイドラインの内容

- ガイドラインのベース
 - ・プロジェクトマネジメント(PMBOK)
 - ・マーケティング論
 - ・自身の経験(クリスマスパーティ08、新歓フェスタ09、七夕パーティ09、クリスマスパーティ09)

提案するガイドラインの内容

- プロジェクトマネジメントとマーケティング
・ イベントを一つのプロジェクトとして捉え、PMBOKを適用できる。
- ・ PMBOKでは取り上げ難い、環境分析・広報などのマーケティングの要素を取り入れることで、現状の課題を解決し、より学生主催イベントに適応したガイドラインになる。

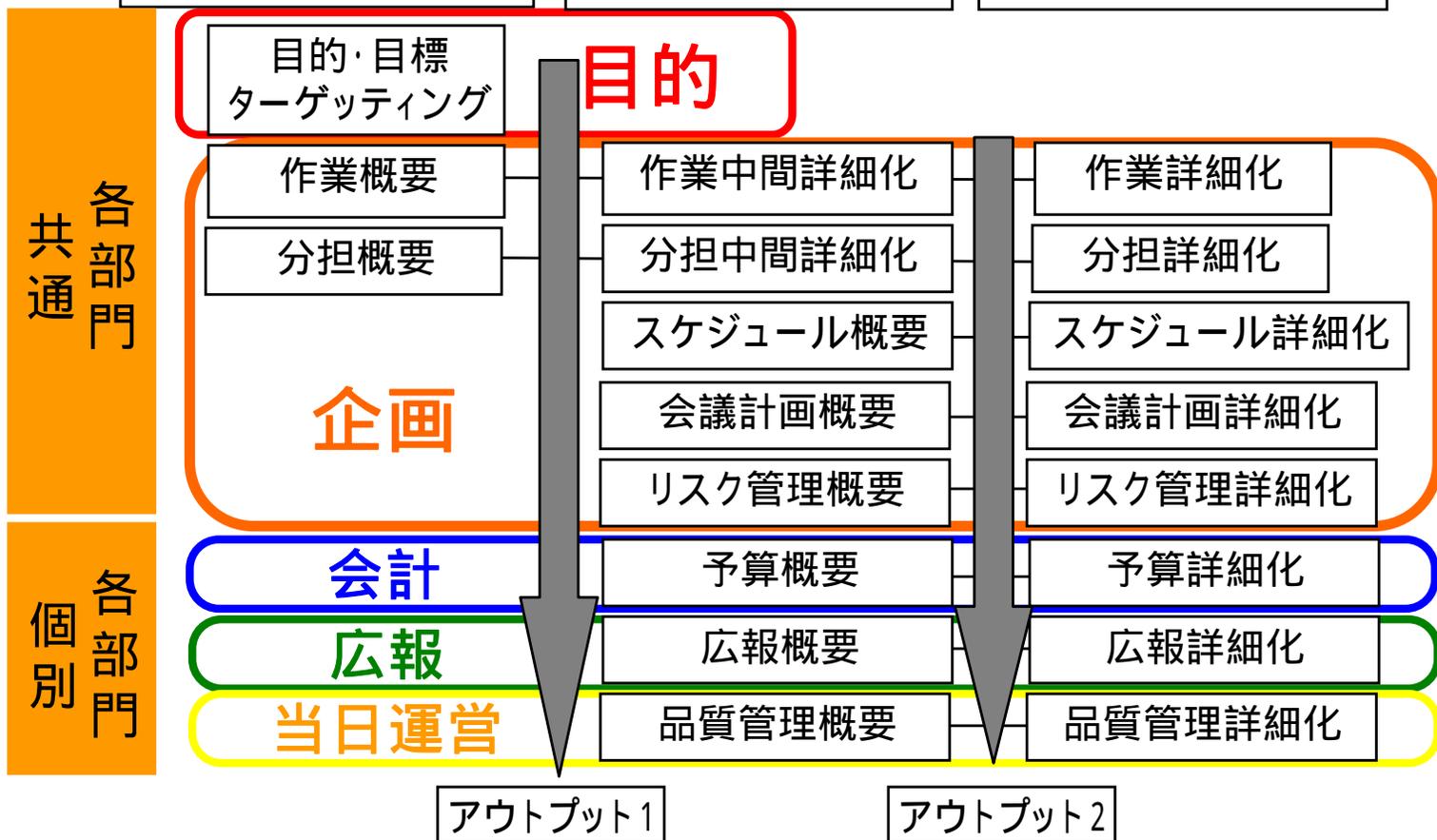
提案するガイドラインの内容





提案するガイドラインの内容

イベント企画



ガイドラインの評価

- 情報学部生10名によるアンケート評価
 - ・全体像が分かった
 - ・テンプレートが欲しい
 - ・企画初心者向けに過ぎない
- 自己評価
 - ・ノウハウをまとめられた
 - ・具体例が必要

結論

- 初めてイベント企画を行う人には、イベントの全体を示すことができ、また有益と判断されたようだった。
- イベント企画経験者には、経験則で理解していることばかり、と思われる一面もあった。

今後の課題

- イベント企画の前後にある、企画準備作業や報告会などに対して、ガイドラインの加筆。
- ガイドラインを利用してイベント企画を行い、実例を集め、テンプレートを作るなどのガイドラインの加筆。あるいは状況に応じた修正。
- 卒業まで、ガイドラインを後輩へ伝える努力をする。